

あいぶらんど通信

2017年
5月15日(月)
あいぶらんど運動
推進委員会発行
No.53

のら牛プロジェクト調印式が行われました



調印式の様子

4/15(土)大きな一歩となる『のら牛調印式』が田尻あいちゃん牧場で行われました。「のら牛プロジェクト」は、放牧を取り入れて快適な環境下で育てる『アニマルウェルフェア(動物福祉)』と、その地域でまかなえる餌を主に与え牛の糞尿を土に返す『資源循環型畜産』によって健康な牛肉生産を行うことを目指したプロジェクトです。
あいコープは、経済動物ではあっても、飼育期間中は少しでも生きものらしく、のびのびと幸せに育ててほしいと考えています。

【牛が育つまで】

【繁殖】母牛が子牛を生む

【育成】だいたい10か月頃まで育てる

【肥育】その後の太らせる過程

はそれぞれ別の生産者が担っています。

『のら牛』生産者は【繁殖・育成】と【肥育】を別々の生産者どうしが手を組み連携することで、理念を体現する生産を目指しています。



加藤農場のあかうし親子

【のら牛生産者とあいコープとの調印式】

田尻あいちゃん牧場で、のら牛プロジェクトに関わる生産者の方々から一言ずつご挨拶をいただきプロジェクトへの意気込みをお話いただき、調印式が行われました。

参加者同士の固い握手を交わして私たちあいコープも生産者の皆さんと共に歩み応援していく意思を伝えました。



プロジェクト生産者とあいコープ高橋理事長

2017年度、あいぶらんど通信第1号は『のら牛プロジェクト調印式』『原木椎茸ツアー』『優ぶらんどマーク』について皆さんにお伝えします(*^^*)

2017年、あいコープは、田尻エコ畜産協議会の皆さんと共にのら牛プロジェクトを本格稼働させます。

まんま通信に載っている『牛肉』現在は、地元宮城県産と秋田県産の2産地で生産されていますが、宮城県産は数量が少なく出荷が不安定な状況です。

地産地消を目指すあいコープはこの牛肉も県内で安定的に生産したいという夢と希望で数年かけて取り組もうとスタートしたのが『のら牛プロジェクト』です。



加藤さん(繁殖・育成農家)とオス牛

【加藤農場・あかうし親子とふれあい】

一行を乗せたバスはまず田尻の加藤農場に到着しました。

こちらで飼われている牛は褐毛和種、通称『あかうし』と呼ばれている茶色の牛です。

種牛であるオス1頭とメス7頭、それから子牛4頭が自由に歩き回っていました。赤牛は人懐っこいことが特徴で、私たちがあげた稲わらを食べてくれたり頭を撫でさせてくれました。

『じもとん』生産者の日向さんによると、“人間が近寄っても逃げないような飼い方をしているんだね”とのこと。飼い主の動物に対する接し方によってどのように飼われているかがわかるそうです。加藤農場はアニマルウェルフェアと地域循環の両方を語る農場です。



小野寺さん(肥育農家)

【放牧予定地を拝見】

次に向かった先は、放牧予定地です。雁音農産の小野寺さんに案内していただきました。

現在は広～い原っぱですが今後、牛舎を建設、牧場を整備して柵も作っていくそうです。

また、牧場の柵には津波を被って使用されなくなった仙石線の枕木を活用することによって牧場の入り口付近に積まれていました。

目を閉じてここに牛が放牧される様子を想像すると、希望に胸が躍りました!



放牧予定地

4/23 旬は今！宮城の原木椎茸見学ツアー報告

晴天に恵まれた当日、20 家族 42 名の組合員と登米市東和町にある、原木椎茸生産者の芳賀裕さんの栽培園地に向かいました。芳賀さん、スタッフの皆さんへ元気な声であいさつをして、さっそく裏山の天然ほだ場へ。山道を 10 分ほど登ると、南向きの斜面には原木ほだ木が並んでいる景色が広がります。ほだ木には大小様々な椎茸があちらこちらにポコッと生えています。

「斜面の中腹に大きい椎茸があるよ」「下から見上げると陰に隠れた椎茸を見つけやすいよ」芳賀さんやスタッフの方にアドバイスをもらい、みんな夢中で椎茸を探りました。収穫した椎茸は量り売りをして、お土産にたくさん買った方もいました。

四季を感じて発生する椎茸は天然ほだ場では年に 1 度、桜の咲く時期が収穫最盛期。「では、一年中原木椎茸が食べられるのはどうしてでしょう？秘密を見に行きましょう！」と、芳賀さん。山を下りて、今度は人工ほだ場を見学。夏を感じさせるハウスはまるでサウナのよう。水に浸水したり、風通しのよい日影に立て掛けたり、四季に見立てた環境にほだ木を置くことで年中収穫できることがわかりました。昼食会場では早速網焼きの椎茸をいただき、採りたて椎茸の味は格別でした。

午後はほだ木に椎茸の菌を植える「植菌」体験と、収穫が終わった原木をのこぎりで短く切った「ミニほだ木作り」を行いました。小さなお子さんもお母さんと一緒に工具を使って上手に作業に励みます。6 年前の福島第一原発事故で、森林やほだ場が汚染された宮城県内の原木椎茸生産農家は出荷停止に。芳賀さんは宮城県と協力して汚染対策に取組み、2015 年ようやく出荷解除となりました。それでも登米市では 4 5 軒あった生産農家は 5 軒の再開に留まるといいます。これからも美味しい原木椎茸が宮城県で作り続けられるよう、みんなで応援していきましょう！

商品部 千葉



天然ほだ場。除染対策として地面には砂利を敷き詰め、枝葉の除去がなされます。斜面を滑らないように気を付けながら、一生懸命に大きな椎茸を探しました。



植菌体験で、ほだ木にドリルで穴をあける作業をしました。芳賀さんに教えていただきながら、お子さんも一緒に体験できました。山で椎茸が育つ様子を見て、普段は出来ない体験を通じて、原木椎茸の生産の大変さと素晴らしさを感じる一日でした。芳賀さん、貴重なお時間をありがとうございました。今後も宮城の原木椎茸が生産し続けられるように、私たちも活動を続けていきます。

あいぶらんど運動推進委員会担当理事 木口



満開の桜の前で集合写真



もこもこ元気な椎茸たち

あいぶらんど運動推進委員会よりお知らせ

- ① 5/24 畜産学習会 『国産肉を食べ続けるために』
- ② 6/10 親子バス企画 放牧バスちゃんとふれあおう！
みなさんのご参加お待ちしております(^_^)詳細はチラシまたはあいコープみやぎのHPをご覧ください。
- ③ 優ぶらんどシールができました！
お手元に届く野菜に右の優ぶらんどシールを添付しております。